

令和6年9月1日

第243号



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「那須街道アカマツ林とヤマユリ」塩那森林管理署

- ◎ 木材の安定供給に向けた供給調整 資源活用課 . . . 1
- ◎ 第77回群馬県植樹祭が開催される 技術普及課 . . . 3
- ◎ 森林内の放射性物質について（令和5年度環境放射線モニタリング調査から）
森林放射性物質汚染対策センター . . . 5
- ◎ 森づくり最前線 山梨森林管理事務所 南部森林事務所 森林官 勝又好徳 . . . 7



木材の安定供給に向けた供給調整

資源活用課

1 国有林の役割

国有林は、国土の約2割を占める広大な面積を有しています。この国有林は降雨を貯留することで、河川に流れ込む水量を平準化し洪水を緩和するとともに、雨水が森林土壌を通過することにより水質を浄化する水源涵養機能や森林の下層植生や落葉落枝が地表の浸食を抑制し樹木の根が土砂の崩壊を防ぐ土砂災害防止機能などを発揮する役割を担っています。

また、国有林は、生産された木材を住宅や家具の資材、紙の原材料やバイオマス燃料などとして提供する物質生産機能を発揮することも担っています。

2 国有林からの木材の供給の仕組み

国有林からの木材を供給する方法は、主に2つあります。1つは、請負事業者が樹木を伐採して丸太に加工したうえで販売する素材販売があります。素材販売には、協定を締結した事業者へ販売する方法、森林管理署で公売を実施する方法や原木市場等に販売を委託する方法があります。また、もう1つは、森林にある樹木を立ったままの状態の販売する立木販売があります。立木販売は、森林管理署で公売を行い、樹木を購入した事業者は、購入の時点から最大3年間の範囲で樹木を伐採し、市場に木材を供給することとなります。



中間土場
(吾妻森林管理署管内)

3 木材の安定供給

国有林では、国産材の約1割強を供給しているという特性を活かし、地域における木材需要が大きく変動した際には、木材の供給調整機能を発揮することも重要な役割となっています。

木材の供給調整機能とは、例えば、木材の需要が低いときには、国有林から供給する木材を少なくすることや、逆に需要が高いときには、積極的に木材を供給することにより木材の価格を安定させ、林業及び木材製造業などの発展に寄与することを目的としています。

4 木材の需要の把握

木材を安定供給するためには、地域の木材価格や需要動向を把握する必要があります。国有林では、その把握のために民有林、木材の加工・流通の関係者や有識者等からの意見を伺う「国有林材供給調整検討委員会」を設置し、国有林材の供給調整が必要と判断される場合若しくは4半期ごとに委員からの意見を頂きつつ、必要に応じて木材の供給調整を実施することになります。

5 近年の木材需要の状況

新型コロナウイルス蔓延の影響で外国の木材の入荷が滞ったこと等により、近年の木材需要は国産材の需要が一時的に増加し、木材の価格高騰（いわゆる「ウッドショック」）がありました。現在では、住宅着工戸数が減少し、国内の木材の在庫が増加している状況になっています。

6 関東森林管理局としての対応

関東森林管理局としては、木材需要が低位になっていることを踏まえ、令和6年6月27日の令和6年度第1回供給調整委員会で意見を伺ったうえで、予防的措置として、今年度搬出期限を迎える立木販売の販売済物件の搬出期限について、延長を希望する購入者に対し最大で1年間無償で延長する措置を講じています。

このことにより、国有林の立木販売箇所からの木材の搬出を需要動向に応じて調整することが可能となるため、木材の供給調整機能が発揮され、地域の木材の安定供給に貢献しています。



令和6年度 第1回供給調整委員会
(東京事務所)

今月の表紙

那須街道アカマツ林とヤマユリ (塩那森林管理署)

栃木県北部の那須町内、通称「那須街道」と言われる那須高原に向かう道の両側には風致保安林にも指定されているほか「とちぎの名勝100選」にも選定されたアカマツ林が広がります。面積79ha、樹齢100年を超えるこれらのアカマツ林の中には遊歩道が設置され、例年7月上旬ごろには林床にヤマユリの花が咲き、訪れる人の目を楽しませています。

一方、昭和50年代後半からアカマツ林に松くい虫の被害が発生し、当時は2万本あったアカマツは現在7400本に減少しています。現在は松くい虫防除事業とともに、次世代の森林づくりのためのボランティアや地元の小学校等による植樹、手入れが行われています。



アカマツ林



地元小学生による植樹活動の様子



那須街道のヤマユリ

第77回群馬県植樹祭が開催される

技術普及課



群馬県知事による主催者あいさつ

スター、標語、緑化功労者への表彰が行われました。また、地元片品小学校緑の少年団の児童が「私たちの暮らしと森林・自然との関わり」などのテーマで、元気よくメッセージを発表しました。今回の開催地である片品村からシラカバ、次回開催地の上野村からシオジの苗木が双方へ交換され式典が終了しました。

この日の展示ブースは利根沼田森林管理署を含む11団体が出展し、利根沼田森林管理署では管内の武尊山や谷川岳などの案内パネルの展示や森林鉄道のレールの文鎮を配布するなど、地

令和6年6月29日（土）に、第77回群馬県植樹祭が「守りたい この木この森この自然」をテーマに群馬県利根郡片品村で開催されました。

当日は雲が多かったものの天候に恵まれ予定していたオープニングアトラクション、式典、記念植樹、展示のすべてが滞りなく行われました。

オープニングアトラクションでは、尾瀬太鼓愛好会による迫力のある和太鼓演奏、みずばしう緑の少年団による元気ある素晴らしい合唱が行われ、その後の式典では、群馬県知事からのあいさつをはじめ、令和6年度緑化運動が



片品小学校緑の少年団による緑のメッセージ



利根沼田森林管理署の展示



元片品村の自然などを PR しました。このほかにも、木工品等の展示販売や「親子で仲良く木のメダルづくり」のブースなど賑わい大変盛況でした。

式典後に行われた記念植樹では、来賓や片品小学校緑の少年団などが参加し、ブナやレンゲツツジの苗木 300 本の植栽が行われました。参加された小学生は植え方の説明を熱心に聞き、一本一本丁寧に植えていました。

今年もさわやかな空の下、参加された皆さんのたくさんの笑顔を見ることができました。



緑の少年団と次長が植樹



緑の少年団による植樹



片品村と上野村の苗木交換



みずばしょう緑の少年団による合唱



尾瀬太鼓愛好会による和太鼓演奏



花咲アルプホルンクラブによるアルプホルン演奏

森林内の放射線性物質について (令和5年度環境放射線モニタリング調査から)

森林放射性物質汚染対策センター

平成23年3月11日に発生した巨大地震による東日本大震災では地震と津波が引き金となって東京電力福島第一原子力発電所で事故が発生しました。

この事故で環境中に放出された放射性物質は地上に落下し、高濃度の放射性セシウム等により立ち入りが制限されている「帰還困難区域」が今も継続する地域があります。

森林放射性物質汚染対策センターは、避難指示区域の指定が解除され住民の帰還が始まった平成26年度から避難指示区域の指定が解除された国有林において、空間線量率等の環境放射線モニタリングを実施しています。



空間線量率測定



継続調査木の樹皮濃度測定

令和5年度は、空間線量率調査1,431地点、継続立木調査33本、伐倒立木調査17本、土壌濃度調査38地点で実施しました。

空間線量率は、帰還困難区域に近い地点で比較的高い線量が測定されていますがそのピークは $0.3\sim 0.4\mu\text{Sv/h}$ で、全調査地点の約85%が $1.0\mu\text{Sv/h}$ 以内となっています。調査開始時点と比べると35.3%にまで低下しており、放射性物質(セシウム134、137)の理論上の減衰速度より早く低下しています。その理由としては、森林内の条件、地下方向への浸透等の様々な自然現象の要素が複合的に作用したためと考えられています。

立木の放射性物質濃度は、調査開始時点では事故当時に飛来した放射性物質が付着した樹皮が最も高かったものが、その後の降雨や剥離等によって林床に落下することで低下しました。その後土壌から立木内に吸収されましたが、樹種によるバラツキはあるものの、立木内の部位別濃度に大きな差は見られず、また、その濃度も極めて低い状態となっています。



伐倒調査木の部材採取（木部）



伐倒調査木の部材採取（樹皮）

土壌中の放射性物質も、立木から落下した放射性物質を含む有機質が落葉層となり、その落葉層が分解され解脱した放射性物質が土壌部に移行し、その深さも年々深くなる傾向にあります。

森林全体では立木中の放射性物質が減少し、総量の約 95%以上が落葉層と土壌部に移行したと考えられます。

また、放射性物質が土壌部に移行したことに伴い、土の持つ放射性物質を吸着する性質により固着し流出しにくくなったことや、土と土中水分により放射線が遮蔽されることにより、空間線量率は物理学的減衰率以上の減衰となっています。

今後、落葉層の分解が進むことにより地表近くにある放射性物質が土壌部へ移行し、土壌生物等の働きにより下方に移動することにより、放射性物資の流出と地上部への放射線の放出は抑制されると予測されています。



土壌採取の様子



試材測定（Ge 測定器）

森づくり最前線

山梨森林管理事務所 南部森林事務所 森林官 勝又 好徳



南部三郎光行公の像

南部森林事務所は、山梨県の南西部に位置する南部町に所在し、富士川中流域の国有林野2,345haと官行造林地407haを管理しています。

南部町には日本三大急流の一つである富士川が流れており、その支流の佐野川の源流部が上佐野国有林となっています。国有林の境界がそのまま山梨県と静岡県の間境となっており、毛無山から連なる熊ノ森、長者ヶ岳、天子ヶ岳があり、東海自然遊歩道が長者ヶ岳から佐野峠へ通っています。この県境は富士山の外輪山のため視界の開けた場所では目の前に富士山が見られ、時期によってダイヤモンド富士（朝方、富士山頂から太陽が昇る状態）を見ることができると、ハイキングを楽しまれる観光客が訪れます。南部町

を通る中部横断自動車道の山梨県から静岡県間は、最後の下部温泉早川IC～南部IC区間が令和3年に全線開通し県外からの来訪が増えてきています。

南部ICに隣接する「道の駅なんぶ」には南部三郎光行公の像があり、南部氏展示室によると、「南部」の地名は武田氏と同じく甲斐源氏を祖とする加賀美遠光の三男であった光行が、1189年の奥州合戦の少し前にこの地に赴任し、南部氏を称したことに始まるそうです。また、その後光行は源頼朝の奥州合戦に従い功により青森県岩手県にまたがる領地を拝領し、「三日月の丸くなるまで南部領」とうたわれるほどの広大な領地を保有した陸奥の戦国大名の祖となったようです。南部氏ゆかりの地として旧盛岡藩領の一つ、青森県の南部町とここ山梨県の南部町の子供たちがお互いの町を訪問しあう交流を30年以上続けています。



佐野峠から富士山と国有林を望む

私は令和6年4月1日付けで南部森林事務所へ異動となり着任から5ヶ月が過ぎました。この間、有害鳥獣捕獲委託事業の監督、カシノナガキクイムシ防除の粘着シートの設置、クマ樹皮はぎ被害防止用テープ巻き、境界の巡検、シカ柵点検、林道落石除去等様々な業務に携わっています。

諸先輩方から受け継いだ国有林を仲間達と守り、より良くして引き継いでいけるよう、獣害対策や森林整備に日々取り組んでいきたいと思えます。



左から筆者、渡辺さん、近藤さん、安武さん